

表 令和5年7月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要	
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第68～80号	1～3日、7日、10日、 14日、17日、21日、24日 16時00分	噴火活動が継続。昭和火口の噴火、爆発、噴煙、大きな噴石飛散の状況。南岳山頂火口のごく小規模な噴火、火映の状況。現地調査による火山ガス(二酸化硫黄)放出量。 火山性地震、微動の発生状況。 島内の傾斜計及び伸縮計で、6月27日から山体膨張を示すわずかな地殻変動が観測されたが、30日頃から緩やかな収縮に転じて膨張は概ね解消したとみられる。 7月23日頃から島内の南西側を震源とする火山性地震がやや増加し、26日に最大震度2の地震が発生、その後もやや多い状態で経過。傾斜計及び伸縮計では特段の変化は認められない。 GNSS連続観測では、長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな基線の伸びがみられる。始良カルデラ地下のマグマ蓄積の状況。	
			26日 12時10分		噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
			28日、31日 16時00分		
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第18～21号	3日、7日 16時00分	火山性地震は多い状態。震源は山体の浅いところ、主に古岳付近で、新岳火口付近でも時折発生。 1日の現地調査で、新岳火口西側割れ目付近の地熱域に特段の変化なし。古岳の山頂部も確認できる範囲で変化なし。火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は少ない。 国土地理院によると、6月30日の「だいち2号」衛星SARデータの解析から、古岳火口周辺数百mの範囲で衛星に近づく変動が認められた。	
			9日 10時20分 16時00分		噴火警戒レベル3を切替え。警戒が必要な範囲に、古岳火口での噴火による影響範囲を追加。 古岳付近の浅いところで火山性地震が6月下旬頃から多い状態、9日からさらに増加し、振幅もやや大きくなっている。新岳に加え、古岳においても噴火の可能性はある。 新岳火口及び古岳火口から概ね2kmの範囲で、大きな噴石及び火砕流に警戒。向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲で、火砕流に警戒。
		解説情報 第22～34号	10日 16時00分	古岳付近の浅いところで火山性地震が6月下旬頃から多い状態。9日からさらに増加し、振幅がやや大きい地震もときどき発生。17日以降はやや減少し、依然として多い状態が継続。 火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、20日は100t/日でやや多い。 監視カメラでは新岳で白色の噴煙を観測。19～21日の現地観測で古岳でも白色噴煙を観測。 「だいち2号」の衛星SARデータの解析から、古岳火口付近でわずかな膨張性の変動が観測されている。	
10日 16時15分 11日～18日 16時00分 21日 16時15分 24日、28日、31日 16時00分					

令和5年7月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第44～52号	3日、7日、10日、14日、17日、21日、24日、28日、31日 16時00分	3日頃から5日頃にかけて山体西側での膨張と考えられる傾斜変動が大きくなり、変化率は6月16～23日頃と同程度。4日以降火山性地震が増加。火山ガス(二酸化硫黄)放出量は、6日は200t/dayで前回までの概ね多い状態から顕著に減少。3日以降、観測データに様々な変化が見られた。山体の西側での膨張を示すと考えられるわずかな地殻変動は継続。火山性地震や火山ガス(二酸化硫黄)放出量は3月下旬以降、それ以前に比べて多い状態が継続。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第27～31号	3日、10日、17日、24日、31日 16時00分	噴煙、火映、火山性地震、地殻変動等の火山活動の状況。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第57～61号	3日、10日、17日、24日、31日 16時00分	噴火活動が継続。噴火、大きな噴石飛散の状況。集落での降灰の状況。爆発の発生はなし。火山性地震、微動の発生状況。地殻変動には特段の変化はない。
		降灰予報(速報)	(今期間発表なし)	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	(今期間発表なし)	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)		(前月から継続)	
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	7日 17時15分	硫黄山では、近傍のGNSS基線で5月頃から山体浅部の膨張と考えられるわずかな伸びがみられる中、7日16時50分に火山性微動が発生。硫黄山火口から概ね1kmの範囲では、大きな噴石に警戒。
		解説情報 第1～11号	7日 17時38分 8日、9日 16時00分 10日 16時20分 11日、14日、17日、21日、24日、28日、31日 16時00分	硫黄山では、近傍のGNSS基線で5月頃から山体浅部の膨張と考えられるわずかな伸びがみられる中、7日16時50分に火山性微動が発生。火山性微動は2018年6月19日以来。浅いところを震源とする火山性地震は少ない状態で経過。南側の噴気地帯では活発な噴気活動が継続。
雌阿寒岳	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第3～5号	1～3日 16時00分	6月29～30日にボンマチネシリ火口付近で火山性地震が一時的に増加したが、7月1日以降は少なく経過。噴気や地殻変動には特段変化なし。2日の現地調査で、ボンマチネシリ火口周辺の温度等に特段変化なし。
十勝岳	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第1～11号	5日 11時15分 16時00分 6～10日 16時00分 14時20分 21日 16時15分 22日 16時00分 23～24日 16時00分	4日に火山性微動が発生し、微動に伴いわずかな傾斜変動を観測。以降、62-2火口付近のごく浅い所で火山性地震がやや増加したが、8日02時以降は少なく経過。地殻変動観測には特段の変化なし。21日にわずかな傾斜変動を伴う地震が発生し、その後火山性地震が一時的に増加したが、22日以降は少なく経過。震源は62-2火口付近のごく浅い所と推定。
十和田	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第1号	6日 10時15分	6日07時30分頃から火山性地震が増加、震源は中湖付近の深さ6km付近。低周波地震や火山性微動は観測されず、地殻変動にも特段の変化はない。監視カメラにでも特段の異常はない。
吾妻山	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第10号	18日 10時10分	大穴火口付近で低周波地震が7月上旬頃から再び増加。浄土平の傾斜計では、3月上旬以降、大穴火口方向の隆起を示す緩やかな変化がみられる。

令和5年7月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
阿蘇山	噴火予報 (噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)	解説情報 第28～31号	7日 12時00分 8～9日 16時00分 10日 16時20分	7日7時頃から、火山性微動の振幅が1から3時間程度の間隔で大きくなる現象が繰り返す。8日以降は5～15分程度のやや大きい状態と、それ以外は小さい状態、9日以降は5～15分程度のやや大きい状態と30分程度の小さい状態の繰り返し。 10日の現地調査で、中岳第一火口内の湯だまり中央部で火山性微動の増大時に明瞭な噴湯現象を確認。噴煙は白色。地殻変動には特段の変化なし。更なる活発化は認められない。

注1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2) 浅間山、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報（定時）を発表している。霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）は、7日20時に発表を開始した。